

課題解決に向けた目標 (1)より安全・安心で良質な水の供給

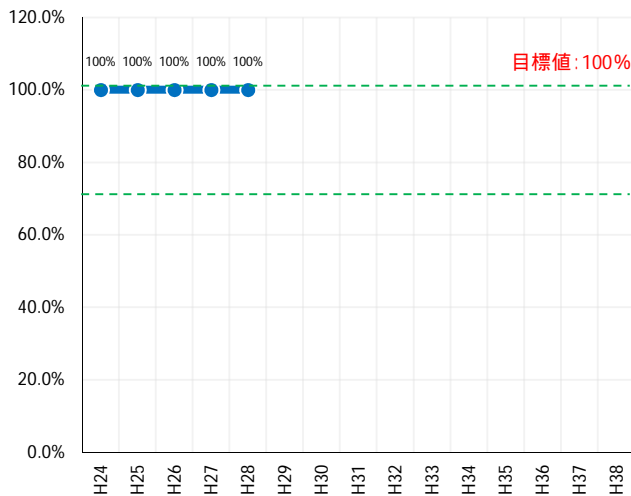
実現方策 **ア 水源の水質保全**

良質な原水の確保は、より安全・安心で良質な水の供給に最も重要な要素となります。このことから、水源の水質保全に向け、次の取組を実施します。
 水源の汚染を防止するため国等の関係機関への働きかけ
 水源地域の清掃活動への参加
 水源の水質保全活動の啓発

優先度C

評価指標 (評価方法)	基準年度値 (H23策定時)	平均値 (H24～H28)	評価時期 目標値(H38)	評価
水源清掃活動の実施回数対基準年度比率	100%	100%	100%	

水源清掃活動の実施回数対基準年度比率



指標算定式
 水源清掃活動の実施回数対基準年度比率
 = (当該年度の実施回数 / 基準年度の実施回数) × 100

評価基準
 水源の水質保全是継続することが必要なことから、水源清掃活動を継続させているかを評価基準とします。

評価結果
 水源清掃活動を継続して毎年度実施しているため、目標を上回る実績である。

取組名	取組実績
水源の汚染を防止するため国等の関係機関への働きかけ	・利根川荒川水系水道事業者連絡協議会を通じて国等の関係機関へ下記の働きかけを実施(H24～H28) 下水道・浄化槽等の整備促進 水源の水質保全・危機管理 農薬・肥料使用への指導強化 等
水源地域の清掃活動への参加	・『水のふるさと応援団』事業に参加し、地元住民らと下久保ダムの清掃活動を実施。(H24～H28)
水源の水質保全活動の啓発	・浄水場見学ツアーや上下流交流(わくわくセミナー)の際に、DVD等によって啓発活動を実施(H24～H28) ・農業用貯水池がかび臭発生源となりうることから、農林部に農業用貯留池の管理者に向けた注意喚起を依頼(H26～H28)

【記入例】

課題解決に向けた目標 (2) 事故・災害に強い水道

実現方策 イ 水道施設の耐震化

施設の耐震化を図り、地震災害に対して被害を可能な限り小さくすることは、地震発生後の応急給水や復旧作業を円滑に行うために重要です。

このため、水道施設の断水リスクや財政状況などを勘案し、次の取組を実施します。

地震発生後1週間以内の復旧を目標とした施設の耐震化

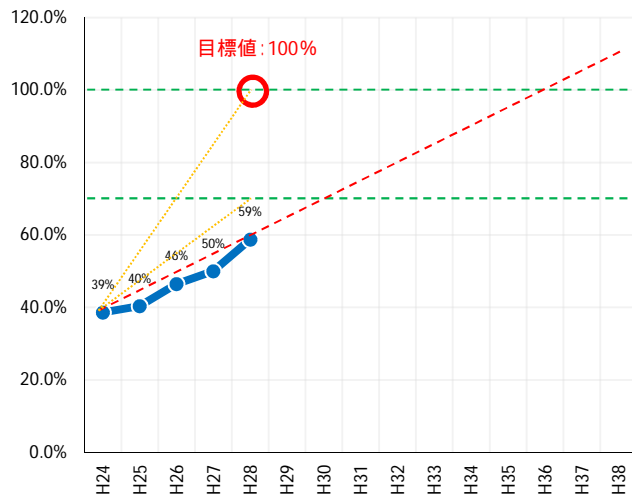
更新に合わせた管路の耐震化

二次災害のおそれがある施設の解消

優先度A

評価指標 (評価方法)	基準年度値 (H23策定時)	最新値 (H28)	評価時期 目標値 (H28)	評価
計画に基づく耐震化実施率	34%	59%	100%	
計画に基づく管路更新実施率	0%	33%	100%	

計画に基づく耐震化実施率



指標算定式

計画に基づく耐震化実施率

$$= (\text{耐震化施設数} / \text{長期ビジョン計画期間内の耐震化対象施設数}) \times 100$$

評価基準

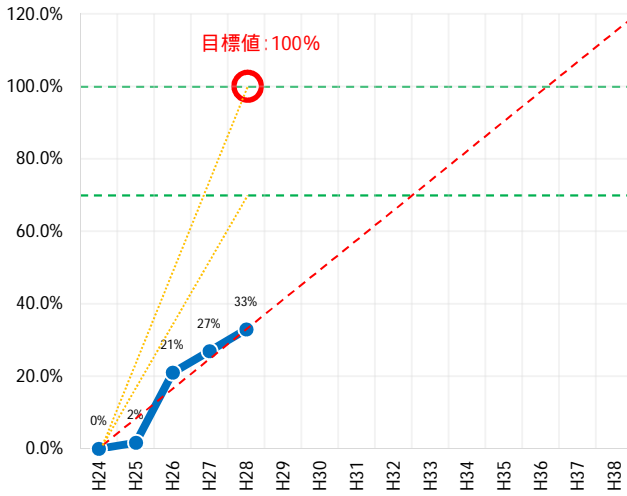
耐震化計画に対して、計画に基づく耐震化を実施しているかを評価基準とします。

評価結果

平成34年度に完成する耐震化計画となっており、着実な取り組みを進めている。

【記入例】

計画に基づく管路更新実施率



指標算定式

計画に基づく管路更新実施率

$$= (\text{累計管路更新延長} / \text{長期ビジョン計画期間内の管路更新計画延長}) \times 100$$

評価基準

管路更新計画に対して、計画に基づく更新を実施しているかを評価基準とします。

評価結果

平成42年度までに実施する管路更新計画を施設整備計画に盛り込み、計画的な管路更新を進めている。

取組名	取組実績
地震発生後1週間以内の復旧を 目途とした施設の耐震化	<ul style="list-style-type: none"> ・県営水道施設の耐震化対策基本方針に基づき、耐震診断を実施(H23) ・平成28年度まで5か年の水道施設耐震化(緊急対策)事業計画を策定。浄水備蓄施設を中心に7施設の耐震化を先行実施(H24~) ・平成26年度から平成34年度の継続費「水道施設耐震化事業」を予算化し、計画的な耐震化の実施(H25~)
更新に合わせた管路の耐震化	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次送水管路更新計画に基づき、川口系系支線6路線の更新事業を実施(H23~) ・荒川横断送水管路更新事業を実施(H24~) ・川口系系幹線の更新に着手(H26~) ・水道施設整備計画の見直し、第一次送水管路更新計画を廃止し、重要8路線の更新計画を策定(H27) ・川口系系支線6路線の更新が完了(H28)
二次災害のおそれがある施設の 解消	<ul style="list-style-type: none"> ・行田浄水場管理本館耐震補強工事を実施(H23) ・これにより、平成7年度より実施していた中枢施設・二次災害の恐れがある施設等を対象とした第一次耐震化対策が完了した

【記入例】

課題解決に向けた目標	(3) 運営基盤の強化
------------	-------------

実現方策	ア 将来の水需要を見据えた施設の更新 及び施設能力の最適化
------	----------------------------------

<p>将来も安全・安心な水を安定して供給し続けるためには、水道施設が健全であるとともに、危機管理や事業運営の影響も考慮した最適な規模であることが必要です。 このため、施設の健全度を適切に把握し、計画的に更新を行うとともに、更新時には将来の水需要を考慮した最適な規模にできるよう次の取組を実施します。</p> <p>継続的な維持管理及び健全度調査による施設の長寿命化 アセットマネジメントに基づく計画的な施設更新 将来の水需要及び水道広域化を考慮した施設能力の検討</p>	優先度 B
---	-------

評価指標 (評価方法)	基準年度値 (H23策定時)	最新値 (H28)	評価時期 目標値 (H38)	評価
施設能力の最適化に向けた計画を策定しているか	未策定	策定 (平成25年度)	水需要に 合わせた 計画	

<p>評価基準 将来の水需要を見据えて、施設能力の最適化に向けた計画が策定されているかを評価基準とします。</p>
--

<p>評価結果 埼玉県においては、平成19年度に水需要の見直しが行われており将来の水需要が減少する見込みとなった。これを受け、平成22年度から水需要減に対応したビジョン見直しの検討(平成23年度見直し)、平成25年度に施設能力の最適化を盛り込んだ、水道施設整備計画を策定している。</p>

取組名	取組実績
継続的な維持管理及び健全度調査による施設の長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や機器の状況等を確認するため日次・月次・年次点検等を実施し、故障や劣化状況を記録し、その結果をもとに長期修繕計画の見直しを実施(毎年度) ・長期修繕計画に基づき修繕工事を実施(毎年度) ・耐震診断の実施(H23)
アセットマネジメントに基づく計画的な施設更新	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な更新を行うため、第6次業務設備整備計画を策定(H24) ・アセットマネジメントの取組みを推進するため、アセットマネジメントシステムの開発を決定(H24) ・第6次業務設備整備計画を水道施設整備計画に統合(H25) ・水道施設管理システムの開発(H26～H28)
将来の水需要及び水道広域化を考慮した施設能力の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備検討部会を開催し、将来の水需要予測に基づく施設能力を検討(H24) ・検討結果に基づき水道施設整備計画を策定(H25)